



INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPAN ICOMOS NATIONAL COMMITTEE
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F, Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo Japan 101-0003
Tel & Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

報道関係者各位
受賞者関係機関各位

2017年12月2日
日本イコモス国内委員会

日本イコモス国内委員会が 「日本イコモス賞 2017」を選出

日本イコモス国内委員会は、建造物、伝統的建造物群、文化的景観、遺跡である記念物及び歴史風土の保存、保全及び活用の振興をはかるため創設された「日本イコモス賞」2017年の受賞者を選出しました。

日本イコモス賞：
文化遺産の保存活用理念、保存活用活動、保存活用プロジェクトの前進に貢献し優れた業績をあげた者に授与します。

「日本イコモス賞 2017」受賞式の開催

「日本イコモス賞 2017」、「日本イコモス奨励賞 2017」の受賞者発表及び授賞式を以下の通り開催いたします。授賞式では、受賞者よりスピーチをいただきます。

「日本イコモス賞 2017」授賞式

日時：2017年12月2日（土）15:15～15:45

場所：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 セミナー室（地階）

〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43

ICOMOS

ICOMOS は、1965年に設立された国際 NGO で、加盟各国の文化遺産保存分野の第一線の専門家や専門団体によって構成されています。ユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、文化遺産保存の理論、方法論、科学技術の研究・応用、およびユネスコの世界遺産条約に関しては、諮問機関として、登録の審査、モニタリングの活動等を行っています。現在、参加国は 153 カ国を数え、会員は 10,100 人にのぼり、※2017年5月現在文化遺産の価値の高揚のための重要な役割を果たしています。

日本イコモス国内委員会（1979年発足）は、日本国内の ICOMOS 会員が組織する団体で、これらの目的を果たすための国際ネットワークの日本における拠点として活動しています。

イコモス国内委員会について

日本イコモス国内委員会は、2017年12月現在、約460名の会員によって構成されています。総会の他、年4回の理事会・研究会などを開催しています。

日本イコモス国内委員会の基礎は、関野克博士（東京大学名誉教授、元東京国立文化財研究所長）によってつくられました。イコモスの第3回総会（1972年、ブタペスト）で日本国内委員会が承認され、関野博士が委員長に指名されました。1979年の総会で日本イコモス国内委員会の規約を採択し、ICOMOS執行委員会の承認を経て正式に発足しました。

日本イコモス賞2017 受賞者

大竹幸恵（おおたけ さちえ）氏

長野県長和町教育委員会教育課長補佐・文化財係長、
黒耀石体験ミュージアム学芸員



【略歴】

明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了
長野県旧長門町、現長和町教育委員会の職員を経て現職。

【受賞業績】

信州縄文時代黒耀石鉱山の調査研究・保存普及・体験学習に関する系統的展開活動

【受賞理由】

大竹幸恵氏は、長野県中部高地に集中する黒耀石原産地群の一つである鷹山遺跡群を中心に黒耀石の採掘・流通に関する研究を四半世紀にわたり続けてきた。特に、星糞峠（ほしくそとうげ）で発見された約200箇所にあつ縄文時代の黒耀石採掘跡の調査研究により、採掘の具体的方法、採掘の継続・断絶の実態を解明した。

採掘跡群は2001年1月、「星糞峠黒耀石原産地遺跡」として国の史跡に指定され、峠のふもとに長和町立「ほしくずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム」が設立され、氏はそこを拠点に、研究をわかりやすく伝える展示活動に力を注ぐとともに、多種多様な体験学習や独創的なイベント、「黒耀石のふるさと祭り」などを推進している。

黒耀石体験ミュージアムにおける展示解説と体験学習のユニークな取り組みは全国に知られ、また外国からも注目され、韓国の全谷（チョンゴク）先史博物館、台湾の十三行（シーサンハン）博物館でも大竹氏によって紹介された。体験ミュージアムにおける多様な取り組みには多くのリピーターがあり、山間部にあるミュージアムとしては破格の集客力を誇っている。

また、長和町は「採掘跡」という共通点から、イギリスの著名な新石器時代のフリント採掘跡であるグライムズ・グレイブス遺跡との世界初の姉妹遺跡協定を、イングランドの

セットフォードで2016年に締結したが、大竹氏はここでも中心的な役割をはたし、中学・高校生14名からなる「長和青少年黒耀石大使」を引率して活躍した。

このように、長野県長和町の山間部黒耀石原産地にある体験ミュージアムを拠点に、信州縄文時代の黒耀石鉱山の調査研究・保存普及・体験学習に関する体系的な展開活動は、草の根の遺跡保存・普及・利活用の姿としても注目に値する。その先頭に立って活動を推進してきた大竹氏の実践は高く評価される。

以上の業績に対し、日本イコモス国内委員会は、大竹幸恵氏に「日本イコモス賞2017」を授与する。

【大竹幸恵氏主要研究業績】

- 大竹幸恵（2017）「黒耀石の歴史遺産を活かした博物館活動と世界遺産への夢」『長野県考古学会誌』154号 特集「信州産黒耀石をめぐる諸問題：信州黒耀石フォーラム2009-2014」 長野県考古学会
- 大竹幸恵（2015）『鷹山遺跡群Ⅶ』（共著）長和町教育委員会・鷹山遺跡調査団
- 大竹幸恵（2015）「史跡を活かした体験学習活動と黒耀石体験ミュージアムの活動」『考古学ジャーナル』666号 ニューサイエンス社
- 大竹幸恵（2014）「星糞峠をめぐる黒耀石資源の開発と流通」『考古学ジャーナル』659号 ニューサイエンス社
- 大竹幸恵（2011）「星糞峠黒耀石採掘址と近接地における原石利用の様相」『信州黒耀石フォーラム2011』 信州黒耀石フォーラム実行委員会
- 大竹幸恵（黒耀石体験ミュージアム）（2004）『黒耀石の原産地を探る 鷹山遺跡群』新泉社
- 大竹幸恵（2003）『鷹山遺跡群Ⅵ』（共著）明治大学黒耀石研究センター用地内遺跡発掘調査団
- 大竹幸恵（2001）『鷹山遺跡群Ⅴ』（共著）長門町教育委員会・鷹山遺跡調査団
- 大竹幸恵（2001）『県道男女倉長門線改良工事に伴う発掘調査報告書 - 鷹山第Ⅰ遺跡及び追分遺跡群発掘調査一』（共著）長門町教育委員会・鷹山遺跡調査団
- 大竹幸恵（2000）『鷹山遺跡群Ⅳ』（共著）長門町教育委員会・鷹山遺跡調査団
- 大竹幸恵（1999）『鷹山遺跡群Ⅲ』（共著）長和町教育委員会・鷹山遺跡調査団
- 大竹幸恵（1998）「星糞峠の原産地と遺跡群」『第10回長野県旧石器文化研究交流会』
- 大竹幸恵（1997）「長門町追分遺跡の調査」『第9回長野県旧石器文化研究交流会』

- 大竹幸恵（1989）「尖頭器文化と遺跡群の形成」『長野県考古学会誌』59・60号 特集
「中部高地の槍先形尖頭器」 長野県考古学会
- 大竹幸恵（1987）「押型文系土器文化の石器群とその性格」『樋澤押型文遺跡調査研究報告書』 岡谷市教育委員会
- 大竹幸恵（1986）「第5節 先土器時代の茅野」『茅野市史』上巻 茅野市教育委員会



（写真提供：大竹幸恵氏）

日本イコモス奨励賞2017 受賞者

富永善啓（とみなが よしあき）氏

株式会社 文化財構造計画 所長



【略歴】

京都大学大学院を修了後、（一財）建築研究協会、
（株）立石構造設計、（公財）文化財建造物保存技術協会を経て、
自身の構造設計事務所・（株）文化財構造計画を設立。

【受賞業績】

歴史的建造物の保存活用における構造設計家としての貢献

【受賞理由】

京都大学大学院を修了以降、150件以上の文化財建造物の耐震診断、耐震設計を実践している文化財分野における若手構造設計家の代表的存在である。

日本の文化財の分野においては、民間の設計事務所が指定文化財の保存修理に関わる機会は少ないが、その中で、構造設計において文化財保存に取り組む設計事務所を設立し積極的な活動を展開している富永氏は、この分野でのパイオニアとして、我が国におけるこれからの文化財の保存と活用において大きな役割が期待される。また UNESCO, ICOMOS を中心として、20世紀以来構築されてきた国際的保存修復理念への理解に基づく構造補強の実践は、日本の構造設計分野に課せられた大きなテーマであり、特に“使い続ける保存”を目指す近代建築における保存と活用の未来は、構造設計家とその大きな鍵を握っている。

富永氏は実務家として、文化庁の「重要文化財（建造物）の耐震補強のあり方に関する協力者会議」ワーキンググループ委員を努めるなど、我が国の伝統的文化財分野での耐震技法を、グローバルな理念・技術に照らし合わせて検証しつつ、より理想的な構造設計のあり方を追究している。

さらには国際貢献の舞台でも近年、文化庁委託事業としてのブータン王国への技術支援チームの一員として活躍した。版築構造など、いまだ構造的に手探りの分野を含む調査研究を実務レベルに繋げるにあたって、氏の構造設計家としての役割は大きなものである。（参考：H23/ブータン王国における伝統的建造物の保存修復手法に関する技術的支援、H24～26/ブータン王国の版築建造物保存に関する調査研究）

世界有数の地震国・災害大国である我が国の文化遺産、とりわけ文化財建造物を、いかに安全にかつ価値を損なわない形で保存し活用していけるかは、まさに日本の構造設計家の能力にかかっている。これからの日本の文化財分野において、多くの有能な構造設計家の誕生を期待しつつ、その先駆者の一人として、富永善啓氏に「日本イコモス奨励賞2017」を授与する。

【冨永善啓氏主要研究業績】

■委員等

文化庁 重要文化財（建造物）の耐震補強のあり方に関する協力者会議ワーキンググループ委員（平成21年度～平成25年度）

日本建築学会 伝統的木造建築物構造設計法小委員会委員（平成21年度～平成24年度）

公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 近代化遺産等修復研究会 組積造建造物の構造に関する専門部会委員（平成19年度～平成23年度）

日本コンクリート工学協会 建築土木分野における歴史的建造物の診断・修復研究会委員（平成18年度～平成19年度）

■著作等

「なぜ建造物では文化財の破壊を伴う構造補強を推し進めるのか」日本遺跡学会『遺跡学研究 第13号』2016

「文化財建造物の構造補強の考え方－実務からの発想」（一社）建築研究振興協会『建築の研究 第227号』

「登録文化財の建造物をどう緩やかに保護するのか」文化庁文化財部監修『月刊文化財 平成27年4月号』

■歴史的建造物における業務実績

重要文化財 親愛幼稚園 耐震診断、耐震補強設計（H24～26）

八坂神社南楼門 耐震診断、補強設計監理（H29）

国宝 石上神社摂社出雲建雄神社拝殿 構造補強設計（H25）

重要文化財 二荒山神社本殿 耐震診断、補強案策定（H26～29）

登録有形文化財 北九州市旧大阪商船 耐震診断（H27）

重要文化財 門司港駅（旧門司駅）本屋 耐震診断、補強設計（H25～）

重要文化財 旧第五高等中学校ほか3棟 耐震診断、構造補強案策定（H24）

登録有形文化財 旧古賀銀行神崎支店 耐震診断、構造補強設計（H25～26）

重要文化財 広島平和記念資料館 耐震診断、補強設計（H23～27）

重要文化財 黒島天主堂 耐震診断、補強案策定（H25～H26）

重要文化財 シャトーカミヤ醸造場施設 耐震診断、補強設計（H24～H25）

他多数



日本奈良聖公会基督教会 親愛幼稚園舎



旧古賀銀行神埼支店

（写真提供：富永善啓氏）

〈本件に関するお問合せ先〉

日本イコモス国内委員会事務局
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
岩波書店一ツ橋ビル 13F 文化財保存計画協会気付
電話/FAX: 03-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org
Web: <http://www.japan-icomos.org>